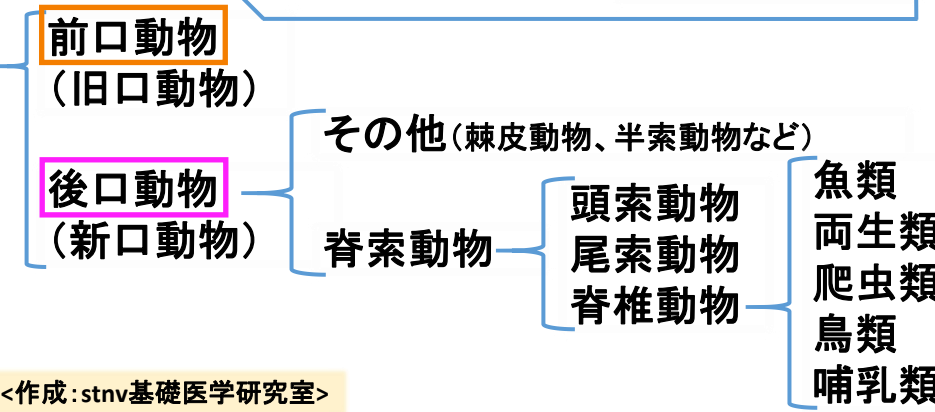
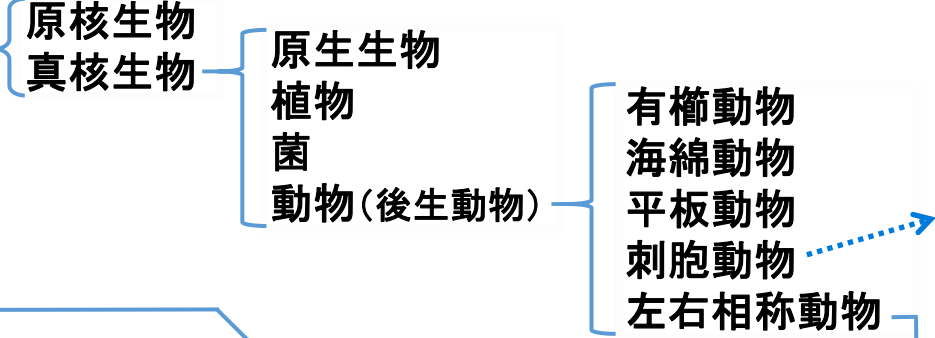
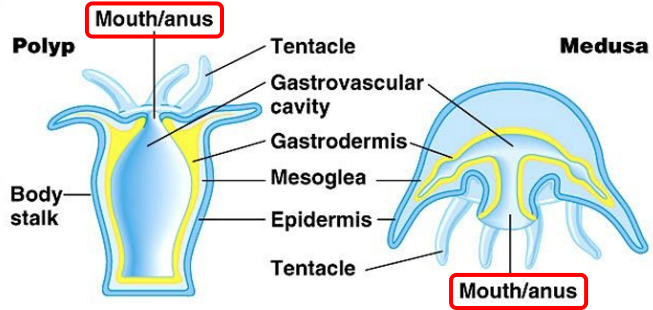
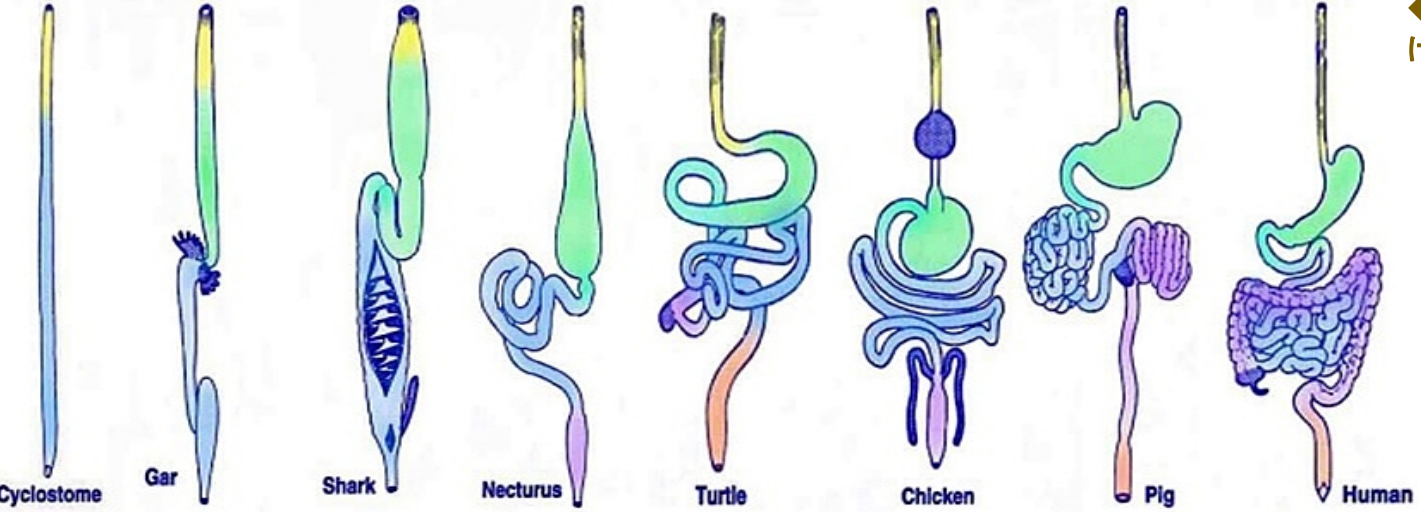




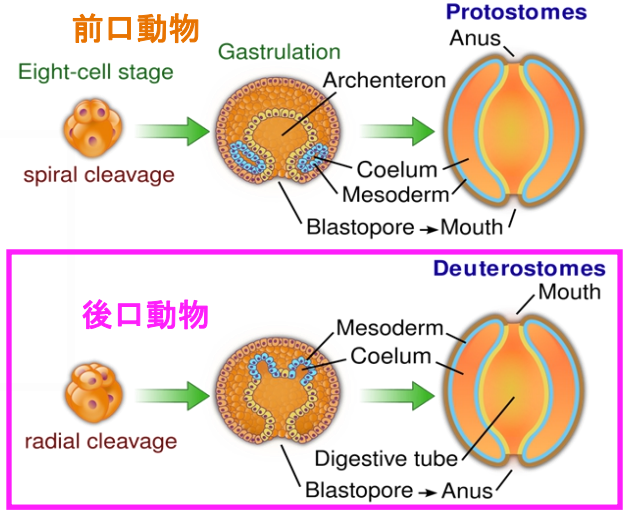
<作成:stnv基礎医学研究室>

後口動物の消化管の進化 →→→

(原図の出典: The Biology Classroom. Theme by Anders Norén.)



(原図の出典: https://www.bpums.ac.ir/UploadedFiles/gFiles/Cnidarians_bbe16f41.pdf.)



消化管の中はまだ体の外である

イソギンチャクやクラゲは、口と肛門を兼ねている。即ち、口から食べて、排泄物を口から出す。

◆ヒトは口と肛門が別であるため、口から排泄物を吐き出さなくても良いことに感謝すべきである。

◆多くの人は、口から物を飲み込んだ時点で、その物が体内に入ったと錯覚している。

◆そのため、何をどれだけ食べたかとか、飲んだかということを気にしている。

◆しかし、消化管内は外部と直接つながっており、基本的には外部であるため、その物はまだ体内には入っていない。

◆ヒトは、せっかく長い消化管を用意してもらったのだから、わざわざ消化を速めたり、吸収を速めたりする必要は全く無い。

左右相称動物は、前口動物と後口動物に分けることができる。
前口動物は、初期胚に形成された原口がそのまま口となって発生する動物を指す。
後口動物は、原口が肛門となり、口は別に形成される動物を指す。

◆食べた物が消化管の中をゆっくりと流れる間に、ヒトの体は必要なものだけを拾い上げる作業をする。逆に、不必要なものは拾い上げないようにする。

